

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な人々と協働することで、急激に変化する社会に対応し、展望を持って自らの人生を切り拓く人材を育成します。総合学科の特色を生かし、様々な学習や体験を通して、基礎学力に加えてこれからの社会で生き抜くために次の「白稜シップ」を育みます。

1. どんな時も投げ出さない、考え抜く強さを持ちます。
2. ゴールに向かって、多くの人と協働します。
3. 変化を恐れず、一歩前へ踏み出します。
4. 創りだすことを楽しみます。

2 中期的目標

1 考え抜く力を育む

- ・基礎学力の定着を図り、生徒一人ひとりの課題に対応した学習支援に組織的に取り組む
- ・生徒が間違いを恐れず生徒が自らの課題を見つけたり、自ら考え学びを深めたりできるようにアクティブラーニングを推進する
- ・学校設定科目「リーディングスキル基礎」「同 応用」を通して生徒の読解力を育む
- ・研究授業や授業見学、授業改善に向けた研修等を通して教員の授業力向上を図る

2 人と協働する力を育む

- ・社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力を育む取り組みを進める
- ・ボランティア活動、体系的キャリア教育、地域連携などの取り組みにより、生徒の自尊感情を育む。
- ・「産業社会と人間」やLHR、総合学習での学びや体験を通して「他者への思いやり」ができる社会人としての基礎力を身につけさせる
- ・生徒の実態把握に努め、関係者間で情報を共有することにより、課題を抱える生徒を早期に発見・対応し、不登校や中途退学を減らす。
- ・外部人材も活用しながら、生徒相談体制と支援教育体制の充実に取り組む。「わたしカフェ」の取り組みを継続させる

3 踏み出す力を育む

- ・「産業社会と人間」の授業をスタートに、科目選択や3年間のキャリア教育、体系的な進路指導を実施することで、生徒が自ら目標を設定し、その達成に向けて行動する力を育む。結果として進路決定率を保持する
- ・外部講師や地域・卒業生の人材を活用することで、生徒が自らの将来について積極的に考える意識を育てる。
- ・インターンシップや職場見学を充実させ、生徒の進路実現を促進する。

4 創造する力を育む

- ・アクティブラーニングを推進し、生徒が自ら考え発表する機会を増やしていく
- ・身につけた知識や情報を活用して企画・制作・発表などを行い、新しい考えや価値を生み出す力を育む
- ・清掃ボランティア活動や地域行事への参加などを通して、地域との交流を深める

5 学校の運営体制

- ・3年間で、総合学科「大正白稜高校」の学びのスタイルを確立させる
- ・研修などを計画的に企画し、教員が成長するための学びを継続させる。
- ・より充実した教育活動が展開できるように、校内設備の改善に取り組む。

* 2020年度目標

- ・進路決定率を全国平均以上 (H29 泉尾高校 87%)
- ・学校教育自己診断における生徒の学習満足度 80%以上 (H29 泉尾高校 56.2%)
- ・就職1次内定率 75%以上で、就職内定率 100%を維持(H29 泉尾高校 1次内定率 93%、内定率 100%)
- ・医療、保育、福祉系への進学者及び就職者数 35人 (H29 泉尾高校 13人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒、保護者については、「泉尾」と「大正白稜」両校の質問項目も異なるため、分けて実施した。教職員は、全教職員統一で実施した。</p> <p>【生徒アンケート】</p> <p>・「授業に工夫」の肯定的回答が75% (泉尾 H29: 69%)、「授業理解」の同が68% (52%)と大幅に上昇した。相互授業見学や教員主体の授業改善ワーキング主催による校内研修の成果と捉えられる。また「リーディングスキルテスト」を全教員が受験したことも影響が大きい。</p> <p>・「生徒会活動」に関する同が76% (68%)と上昇した。この数年、生徒会担当者が生徒の実態に合った内容となるよう工夫してきたことの成果である。また、「先生の指導」や「評価」への肯定的回答が7割を超えるようになったことから、生徒と教員の信頼関係の醸成されてきたことが、行事等への満足度につながっていると考えられる。</p>	<p>【第1回7/25開催】</p> <p>・リーディングスキル(文章を読み取る力)は、とても大切で良い取り組みである。リーディングスキルを実施している学校は全国でどのくらいあるのか。</p> <p>→テストは、今年度開始で公表されていないのでわからないが、科目を開講しているのは、おそらく本校のみと思われる。</p> <p>・リーディングスキルなど大変すばらしい教育内容を行っているので、HPの充実など広報を充実させてはどうか</p> <p>→充実させていく。また広報についての知識を得ていく。</p> <p>・先生方の取組みを生徒にいかにも効果的に伝えるかという観点で、クラス掲示の方法を見直してはどうか? (具体的には、全クラス、進路情報はこのエリアというふうに場所の固定化など)</p>

<p>【保護者アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生は子どもの評価を適切・公平に行っている」の肯定的回答 82%、(H29 : 55%) 「先生は、子どもの相談に気軽に乗ってくれる」が同 80% (H29 : 72%) と学校に対する理解が深まっている。 ・「行事・PTA 活動等への参加」が、同 60% (泉尾 H29 : 21%) と他の設問より低い。家庭環境に関する外部連携の必要な教育相談事例が 2 ケタを超える中で、家庭内の親子のコミュニケーションの減少も背景にあるのではないかと考えられる。保護者の教育内容への理解や興味を引出し、家庭でのコミュニケーション増加の方策を検討したい。今年度 HP 担当者が広報に関する一般研修を受講。中学生への広報活動のみならず、保護者や地域へのわかりやすい広報活動をすすめていく。 <p>【教職員アンケート】今年度教職員アンケートは改編したため経年変化を図るのは難しい。改編の内容は、本校が生徒に身につけさせたい 4 つの力 (考え抜く力、協働する力、一歩踏み出す力、創造する力) を育成する手立てをとっているか、という設問を加え、既存の設問を精査した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「各分掌や各学年の連携が有機的に機能している」の肯定的回答が 57% (H29 : 65%) と減少。改編の影響もあるが、首席の役割の明確化や運営委員会等各種委員会の機能をより強化する必要がある。また、ミドルリーダーとなる教職員を核に互いに学びあう職場をより高めていく必要がある。 	<p>→精査の上、検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務を遂行するなかでの先生方のキャパシティの問題が挙げられる。職場環境の改善という観点でも配慮すべき →社会問題としても取り上げられており、今後委員会等の指示のもと、配慮改善していきたい。 <p>【第 2 回 11/19】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒相談の内容をどのように保護するのか。 →個人の相談や情報等、パスワードをかけたり、鍵付の金庫で保管している。 ・第 1 回でも出た意見だが、職員のスタッフ数と職務のバランス (時間外勤務数) は、保たれているか。 →今後、学校運営協議会委員の方などにも人的スタッフの協力要請など外部機関への働きかけをおこなっていく。 ・総合学科 1 年目の科目選択において、どのような点が課題か。 →個別のガイダンス業務に時間と人などの環境整備が必要。 <p>【第 3 回 2/14】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の経験校数等についての状況はどうか。 →本校が初任である先生の割合が多い。 ・総合学科への転換による生徒の変化についてはどのように感じているか。 →変化が感じられるのは、選択科目が始まる 2 年目以降となる。 さまざま新しい取り組みにより、生徒との距離は近くなった。 ・生徒自らが「調べる力」を身につけさせる取組みが必要ではないか。 →小中学校での取り組みが土台となって、更なる仕掛けが重要。 ・各種検定受験の結果内容についてはどう考えるか。 →受検者は少ないが、次年度から授業内でも受験を促す指導。 ・中学 3 年生の学校説明会への参加率について状況は？ →昨年度より若干少ない傾向。定員に達する努力は必要。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 考え抜く力を育む	<p>(1) 学習活動の充実</p> <p>(2) わかる授業、充実した授業づくり</p>	<p>(1)</p> <p>ア. グループ学習・プレゼンテーションなど、生徒に興味関心を持たせるアクティブラーニング授業の推進。</p> <p>イ. 朝活動と連携しながら、「リーディングスキル基礎」の授業を通して、読解力を育む</p> <p>(2)</p> <p>ア. 授業アンケート結果を分析し、各教員個人や教科で「振り返り」を行うことで、授業改善につなげる。</p> <p>イ. 校内や他校の研究授業や授業見学、および授業力向上研修への参加に積極的に取り組み、授業改善に生かす。</p> <p>ウ. 授業見学週間を設定し、教員相互の授業見学と授業に対する意見交換を行うことにより、各教員の授業力向上に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア. 生徒向け学校教育自己診断の「授業に工夫」の肯定率 60%以上 (泉尾 H28 : 52% H29 : 69%)</p> <p>(2)</p> <p>アイウ 生徒向け学校教育自己診断の「授業理解」の肯定率 50%以上 (泉尾 H28 : 43% H29 : 52%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア、・「授業に工夫」の肯定率 75% (前年比 6P+) (◎)</p> <p>イ、年間を通じて、朝活動 (10 分間) の中で、リーディングスキルの課題に取り組んだ (○)</p> <p>(2)</p> <p>アイウ 生徒向け学校教育自己診断の「授業理解」の肯定率 68% (前年比 16P+) (◎)</p>

府立大正白稜高等学校

2 人と協働する力を育む	<p>(1) 社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力の醸成</p> <p>(2) 生徒理解の促進と相談体制の確立</p>	<p>(1)</p> <p>ア. LHRや「産業社会と人間」を中心に、「他者を思いやる心」を育てる取り組みを充実させる。</p> <p>イ. 「産業社会と人間」の授業を中心に、他者と協働する活動を充実させ、その力を育む</p> <p>ウ. より多くの生徒に、地域清掃を体験させることで、社会の一員である事を自覚させ、自尊感情を育成する。</p> <p>エ. 文化祭、体育祭などの学校行事、校内美化、校内緑化等の委員会の活動および部活動を充実させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア. 生徒個々の課題に対応する学校の体制(相談委員会・人権教育委員会・支援チームなど)を充実させる。また、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」(居場所型)を効果的に活用し、外部人材を活用して生徒の支援につなげる。</p> <p>イ. 生徒の実態把握のため、中学校訪問や家庭訪問に積極的に取り組み、保護者、中学校、地域との連携をより強化する。</p> <p>ウ. 要配慮生徒に対する校内体制の充実に取り組み、諸課題を解決する。</p>	<p>アイ</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断で「人権」の肯定率を65%以上(H28:58% H29:65%)</p> <p>ウ. 清掃活動に参加する生徒の率を45%以上(H28:43% H29:50%)</p> <p>エ. 生徒向け学校教育自己診断で「生徒会活動」に対する肯定率50%以上(H28:48% H29:63%)</p> <p>(2)</p> <p>アイウ</p> <p>生徒向け学校教育自己診断で「生徒相談」に対する肯定率55%以上(泉尾H28:47% H29:59%)</p>	<p>アイ</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断で「人権」の肯定率を66%(前年比1P+) (○)</p> <p>ウ. 清掃活動に参加生徒率、春・秋平均50%(前年と同じ) (○)</p> <p>エ. 生徒向け学校教育自己診断で「生徒会活動」に対する肯定率70%(前年比7P+) (◎)</p> <p>(2)</p> <p>アイウ</p> <p>生徒向け学校教育自己診断で「生徒相談」に対する肯定率60%(前年比1P+) (○)</p>
3 踏み出す力を育む	<p>(1) 夢と志を育むキャリア教育の充実</p>	<p>ア. 2年次の科目選択を通して、自らの目標を設定し、その実現に向けた取り組みを進める</p> <p>イ. 職業適性診断テスト、インターンシップ、職場見学、進路別・分野別説明会、大学訪問、奨学金説明会等を体系的に計画し生徒の進路実現に結びつける。また資格取得にも積極的に取り組む。</p> <p>ウ. 外部講師、地域人材や卒業生などを活用し、生徒の進路意識を高める取り組みを充実させる。</p> <p>エ. 部活動の加入率を上げる。</p>	<p>アイウ</p> <p>生徒向け学校教育自己診断で「進路を考える」の肯定率を70%以上(泉尾H28:66% H29:73%)</p> <p>エ. 部活動加入率を30%以上(H28:31% H29:28%)</p>	<p>アイウ</p> <p>生徒向け学校教育自己診断で「進路を考える」の肯定率69%(前年比-4p) (△)</p> <p>イ. 検定受験者数75名(英検16名、数検10名、漢検24名、ワープロ検定25名) (○)</p> <p>ウ. 地域の方の話を聞く会、卒業生の話を聞く会などを実施した (○)</p> <p>エ. 部活動加入率30%(前年比2p+) (○)</p>
4 創造する力を育む	<p>(1) 学習活動における発表機会の充実</p> <p>(2) 地域との交流</p>	<p>(1)</p> <p>ア. アクティブラーニングを推進し、授業における生徒の発表機会を充実させる</p> <p>イ. 「産業社会と人間」では、ディベートや発表会を行い、新しい考えや価値を生み出す力を育む</p> <p>(2)</p> <p>ア. 地域イベントやインターンシップ、進路行事、授業など様々な機会を通して、地域の幼稚園、小、中学校、介護施設、区役所、企業等と交流を深める機会を設ける</p>	<p>(1)</p> <p>アイ</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の「授業に工夫」の肯定率60%以上(泉尾H28:52% H29:69%)</p> <p>(2)</p> <p>年間5回以上の交流機会を設けることができたか。</p>	<p>(1)</p> <p>アイ</p> <p>「授業に工夫」の肯定率75%(前年比6P+) (◎)</p> <p>(2)</p> <p>年間11回以上の交流機会を設けた</p>
5 学校の運営体制	<p>(1) 学校改革の推進</p>	<p>ア. 全教職員が「自らも学校づくりに参加している」という意識をもてる取り組みを進める。</p> <p>イ. 計画的な教職員研修の実施</p> <p>ウ. 学年が連携した学校運営</p> <p>エ. 教育環境を改善するための学校施設、設備の充実</p> <p>オ. ホームページ、学校説明会、中学校訪問等による情報発信、広報活動を充実させる</p> <p>カ. 学校行事等に来校する保護者を増やすことで、行事に取り組む生徒達の意欲を高める。またそれによりPTA活動の一層の活性化を図る。</p>	<p>ア. 教員の学校教育自己診断で「教職員の意見が反映」の肯定率50%以上(泉尾H28:42% H29:52%)</p> <p>イ. 年間5回以上の職員研修を実施できたか</p> <p>ウ. 教職員による学校教育自己診断で「学年間連携」の肯定率63%以上(泉尾H28:57% H29:65%)</p> <p>エ. 1年間に3件以上改善できたか</p> <p>オ. 定期的に更新できたか</p> <p>カ. 体育祭、文化祭、公開授業に来校する保護者数の増加5%以上(泉尾H28:319名 H29:376名)</p>	<p>ア. 教員の学校教育自己診断で「教職員の意見が反映」の肯定率76%(前年比24p+) (◎)</p> <p>イ. 職員研修年間10回実施</p> <p>ウ. 教職員による学校教育自己診断で「学年間連携」の肯定率57%(前年比6p-) (△)</p> <p>エ. 4件実施</p> <p>オ. 定期的に改編、更新した</p> <p>カ. 体育祭、文化祭、公開授業に来校する保護者数10%増加(泉尾・大正白稜H29:376名 H30:415名) (◎)</p>